

原告団

遺族・CO裁
判、災害責任
追及、特集号

第二百一十一号

原告団レポート

CO患者——
中西 美幸 さん

この災害で、三池労働組合の上村孝知さんら七人が死亡、四百二十五人がCO中毒患者と烙印を押された。

中西美幸さん(大正九年二月一日生まれ・六十二歳)は、その日(正確には九月二十七日)三番方に出動してこの災害に遭遇したのである。罹災当時四十七歳、ばりばりの松葉炭工だった。

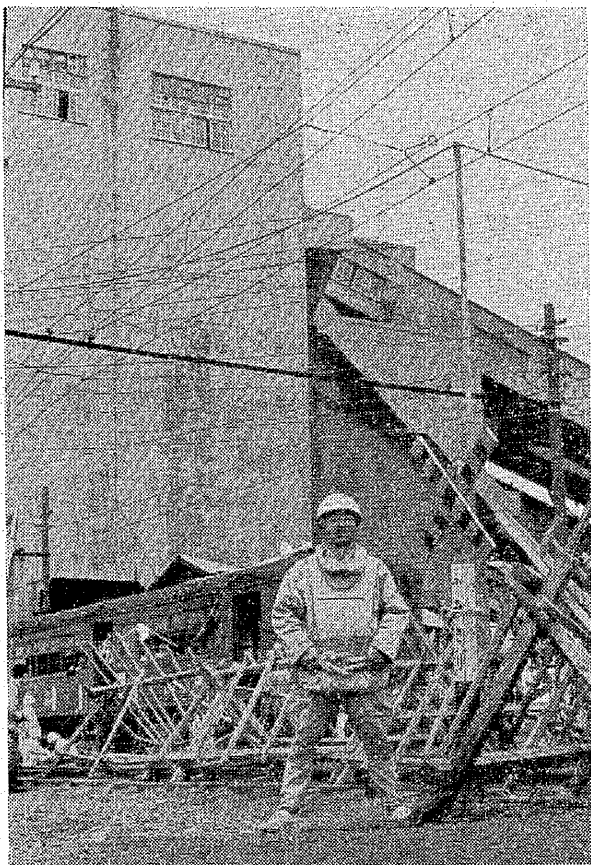
黒煙の中で

昭和三十八年十一月九日の三川鉱炭じん爆発から、三年十月余り経った四十二年九月二十八日、同じ三川鉱の三百五十五メートル坑道(ゼロ)片材料線で坑内火災が起り、その煙(COガス)は同坑道から上層二十六号、上層三十六号、本層三十六号へと流れ込

「……三番方あたりが約二十六号御岩盤坑道本線から約百五十メートル付近にて、この煙が……」

責任は明白

約一時間の事実経過だけが残り



昭和35年三池闘争中、ホツパーのピケで。



自宅の庭で中西さん夫妻。左に見えるのは駿馬天満宮の社殿。

煙の中で生き得たが

弟を爆発で失い、自分はガス中毒

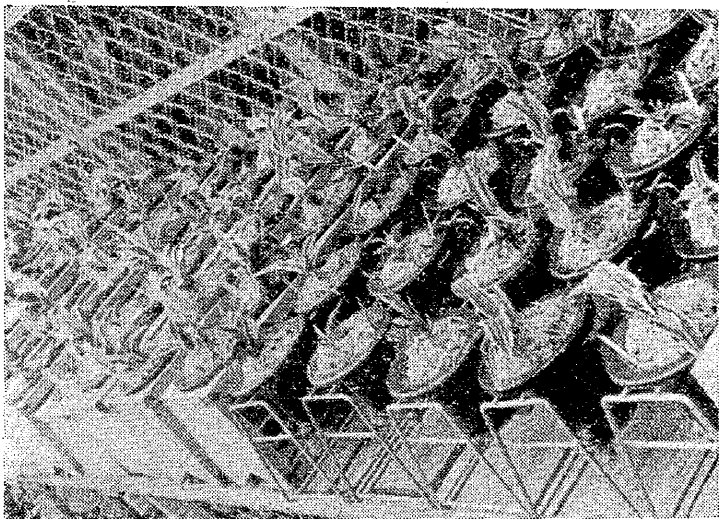
好きな盆栽にも手が届かない

戦火の中で

中西さんは十二月五日に万田鉱に入社。大牟田市の神田町で下宿住いながら仕立工として働き出した。それまで阿蘇の内牧で父と共々肥後の駒下駄というのか焼杉の下駄を作っていたという。

病院暮らし

ある日突然夏服が支給された。「台湾らしい」ということだった。やがて戦況が悪化の一途をたどり、命からがら逃げる破目となり、夜も(さ)つまいも、麦、野菜など



ちよつと角度はおかしいのですが、ずらりとならんだオモトの鉢。

オモト作り

ちよつとした空地を耕しては植えつけ、にわとりや、うさぎも飼った。幸い奥さんも強かったため、十月月満動などという記録もつくりながら、仕事から帰って畑仕事という毎日であった。

弟も犠牲に

中西さんは、奥さんの言によれば「性格は本当に真面目で、お世辞など言わないし、口かすも少いけれど、自分の思ったことはポンポン言う」とのこと。

※ ※

(訂正) 前号、池田ミヤ子さんのレポート中、写真説明の中で「前田さん」と誤り、「安富闘争」を安富と述べておりました。おわびし訂正いたします。